

ウオダス 漁海況速報 No.1502

発行日 平成 18 年 8 月 16 日 <http://www.applenet.jp/aosui/>
 発行 青森県水産総合研究センター TEL 0173-72-2171 FAX 0173-72-2778
 住所 〒038-2761 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字鳴戸384-37

8月のウオダス発行日

日	月	火	水	木	金	土
		①	2	3	4	5
6	⑦	8	9	10	⑪	12
13	14	15	⑬	17	18	19
20	⑳	22	23	24	25	26
27	㉑	29	30	31		

- 大型クラゲは兵庫県沖まで出現がみられています
- 大戸瀬沖に水温観測ブイを設置しました

◎主要魚種の動き

1.スルメイカ（一本釣）

県内主要港の7月下旬までの累積漁獲量は3,172トンで、前年比155%の漁獲となりました。近年5ヶ年平均と比較すると約85%と、やや低い状況となっています。

(1) 日本海

昨年より漁期入りが遅れたものの6月下旬以降好転し、7月下旬までの累積漁獲量は、不振だった昨年の約3倍となりましたが、過去5年平均を下回り、87%の水揚げでした。

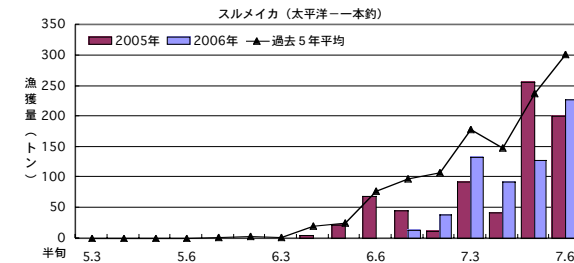
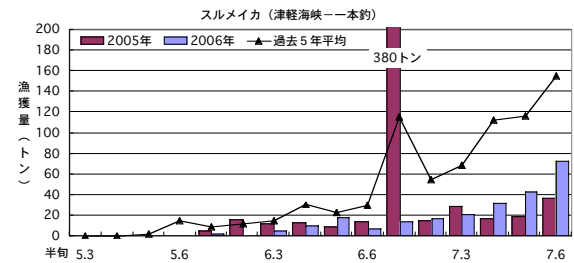
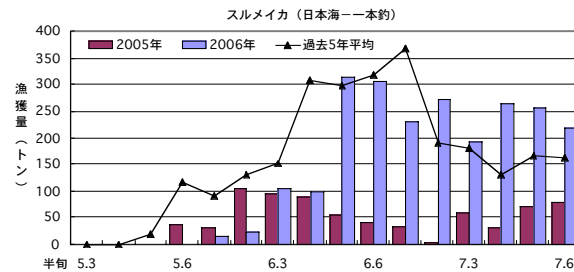
今期は、漁期初めから大型の個体が多く漁獲され、小型個体が少なかったことが特徴として挙げられます。試験船の調査でも沖合から道南にかけて大型個体が分布し、山形県及び秋田県の沿岸に小型個体の分布が確認されました。

(2) 津軽海峡

漁獲が低調に推移し、7月下旬までの累積漁獲量は昨年の43%、過去5年平均の32%の水揚げでした。下北半島周辺海域の前半は、日本海側と異なり小型の個体が主体となりましたが、7月下旬頃には日本海からの回遊群とみられる大型の個体が獲れ始めており、半旬別に比較すると、7月第4半旬からは昨年を上回る漁獲がみられています。

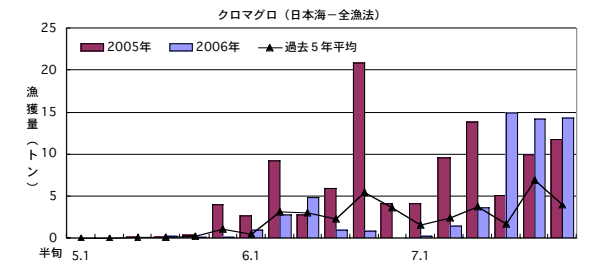
(3) 太平洋

日本海同様漁期入りが遅れ、7月上旬に漁期入りとなりました。7月下旬までの累積漁獲量は、昨年比で85%、近年5ヶ年平均では53%と低調な漁獲で推移しました。魚体は、漁期初めは小型魚主体でしたが、7月下旬から大型個体が獲れだしました。これは、一斉調査の結果等試験船調査の結果から、日本海からの回遊群ではなく、太平洋北上群と考えられます。



2.クロマグロ（日本海全漁法）

日本海では、好漁だった昨年には及ばないものの、過去5年平均並みの水揚げでスタートしました。6月下旬に一度落ちこんだものの再び回復し、7月下旬の累積漁獲量は昨年の57%、過去5年平均の150%でした。



◎大型クラゲ情報

8月上旬現在、兵庫県沖まで出現がみられています

- ・7月21～24日 東シナ海から長崎県対馬周辺で1～160個体の大型クラゲ（傘径25～70センチ）が目撃されています。出現時期は昨年より11～15日遅れ、出現個体数も少ない状況です。
- ・7月28～29日 対馬周辺で1～100個体の大型クラゲ（傘径20～50センチ）が目撃されています。
- ・7月26日～8月1日、対馬の定置網に2～100個体入網しました。
- ・7月30日～8月4日、対馬海域で1～200個体（傘径50～70センチ）が目撃されました。
- ・8月7～8日、島根県沖で4個体（傘径26～104センチ）が目撃されました。
- ・8月10～11日、兵庫県沖で3個体（傘径40～50センチ）が目撃されました。12日には兵庫県の定置網に1個体（傘径50センチ）が入網しました。
- ・8月12日、山口県沖で多数の大型クラゲ（傘径100センチ程度）が目撃されました。
- ・7月21日から長崎の以西底びき網漁船4隻により対馬周辺で沖合洋上駆除を実施しており、今後も引き続き実施する予定となっています。
- ・8月7日現在、西日本海域での漁業被害に関する情報は寄せられていません。

（資料：（社）漁業情報サービスセンターのホームページ

<http://www.jafic.or.jp/kurage>

太平洋の海況 (8月10～13日)

概況；沿岸水温は20℃台

○太平洋沿岸域の表面水温 20℃台で前回と変わっていません。昨年同期と比較すると1度ほど低い水温です。

○津軽暖流の尻屋崎東方への張り出し 21℃等温線でみると東経143度付近までで、張り出しは前回と変わっていません。

○親潮系冷水の南下 20℃等温線でみると北緯38度付近までで、張り出しは前回と変わっていません。

日本海の海況 (8月10～13日)

概況；沿岸水温は23～25℃台

○日本海沿岸域の表面水温 23～25℃台で、前回と変わっていません。昨年同期と比較すると2度ほど低い水温となっています。

◎今年のキアコウ標識放流数296個体、既に2個体再捕(むつ水産事務所)

●昨年に引き続き、津軽海峡沿岸の蛇浦、易国間、野牛各漁協の協力を得てキアコウ標識放流を行いました。放流には刺網、底建網で漁獲された全長15cm～68cmの個体を用い、昨年と同様背びれ基部にディスクタグを結着する方法で、2006年3月19日～6月25日の期間に、蛇浦漁協229個体、易国間漁協47個体、野牛漁協20個体の合計296個体を放流しました。昨年の放流数281個体とあわせると2年間で577個体の放流数となります。

●今年放流を行った個体では、既に2個体が再捕されました。一例目は3月16日に易国間沖で全長60cm(推定体重3.7kg)で放流した個体が、112日後の7月6日に岩手県釜石沖において全長67cm、体重4.8kgで、2例目は3月24日に易国間沖で全長48cm(推定体重1.87kg)で放流した個体が、120日後の7月22日に六ヶ所村泊沖において体重3kgで、それぞれ定置網で再捕されています。

●昨年の放流以降、現在まで合計11個体が再捕されていますが、その結果では、①移動範囲は広範囲に及ぶ(最も遠いところで福島県浪江町沖)、②短期間に成長が認められる、③一部の個体は単価の高い冬期間に再捕される、などが明らかとなっています。

●キアコウ標識魚が再捕された場合は、むつ水産事務所(Tel:0175-22-9732、Fax:0175-22-8626)までご連絡下さい。

水温観測ブイを設置しました

8月1日、大戸瀬漁協の山崎さんの協力を得て水温観測ブイを設置しました。これは大型クラゲ出現調査及び情報提供事業の一環で、日本海沿岸16ヵ所及び太平洋側の鹿児島、和歌山、岩手沿岸に水温観測ブイを設置して短期の海況変動を把握しようとするもので、本県では深浦町大戸瀬沖水深25mに設置されたものです。

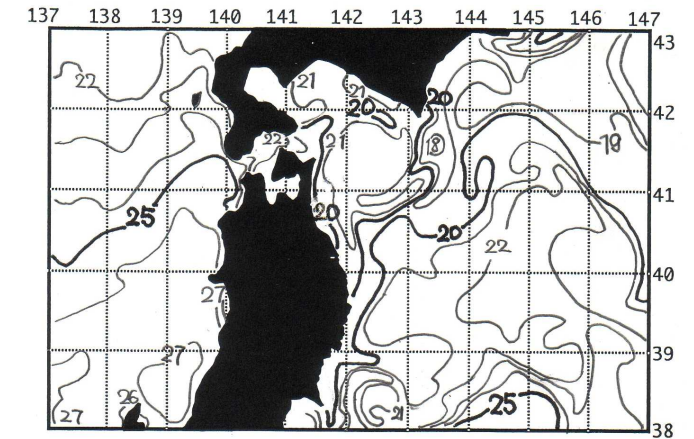
大戸瀬では水深1m、10m、20mの3層において、10分間隔で水温が観測されています。8月1日から15日までの水温は1m層で20.74～27.74℃、10m層で19.92～26.23℃、20m層で19.92～24.95℃となっていました。

また、8月1日から4日ごろまでは3層とも似たような水温でしたが、それ以降は各層の水温差が顕著となり、大きな水温変動もみられます。

半旬ごとの平均水温は右表のとおりです。

大戸瀬沖水温ブイのデータ(℃)

	1m層	10m層	20m層
8月第1半旬	23.20	22.79	22.23
8月第2半旬	25.26	23.93	22.47
8月第3半旬	26.40	24.38	22.58



資料：(社)漁業情報サービスセンター
北部太平洋海況情報 第38号 8月14日

